

感動の一週間

受入れチームの紹介

奈良県(天理高校)少年男子チーム、一年生4人は昨年(の日本)になり全員レギュラー。点を入れた時は体中で表し、私たちにアピールしてくれました。

全員素晴らし
い子ども達で
した。

調理

試合が第一試合で朝早い
ため、早朝から(役員は四時・五時)準備にかかりましたが、勝ち進んでいくので、

私たちも張り切って調理しました。

歓送迎会

二十六日に選手のパスが到着、「待ちよったばい」「いらっしやい」で迎え、前日出来上がった



決勝戦応援のようす、

たばかりの千羽鶴(婦人会)に勝利の願いを込めて渡しました。夕食後、民泊家庭に帰る時、協力会男性の皆さんが作成した「竹灯籠」に選手も一緒に火をつけてもらい、感動のシーンでした。

送別会では、監督と会長が勝利の喜びの言葉と贈り物を交換、勝利のブロンズ像を見せて頂き、焼肉でもてなしました。大分名物「豊後だんご汁」もなかなかの好評でした。

民泊された方は、涙・涙で「ま

た来ちよくれ」と別れを惜しむ姿に、胸が熱くなりました。

民泊受け入れの感想

国体選手の民泊受け入れは初めてなので、大変不安でしたが、とにかく皆で一生涯懸命やろうと決めました。孫のように可愛い子ども達と一週間過ごし、情がわき、大きな力をいただきました。私たちにとって、とてもいい経験でしたし、一生忘れることはないでしょう。感動・感動でした。

民泊家庭より

普段は夫婦二人の生活、そこへ遠く離れて暮らしている息子が二人帰って来たようで、話をしたり洗濯をしたりで、嬉しい気持ちでした。

急に家の中が賑やかになり、私たちも若返り元気をもらいました。見たこともなかったホッケー競技を目の前で応援して、奈良県優勝。今までに味わったことのない感激で胸が一杯でした。

二人の子どもに、「この一週間ありがとう」と言ってもら



った時は、胸がキーンとなり涙をこらえました。私たちも一生忘れる事のない国体でした。

近くに孫たちも同じ年ごろなので、もう一度逢えるといいねと言っています。私も願っています。感動をありがとう。